

# 転機

山 野 敦 史

まず、卒業パーティに後援会から補助金を頂いたことに対して、お礼を申し上げます。思い出に残るとても楽しいパーティでした。

大阪生まれの私は高知に引っ越し、今も両親は高知在住です。しかし、私は現在、対馬で薬剤師として勤務しています。というのも、実は大学在学中に対馬出身の彼女と結婚し双子の子供も生まれたからです。妻はまだ第一薬科大学に在学中で国試に向けて頑張っています。

私の国試への道はとても順風満帆とは言えず、まず、高校受験に失敗して入学した高校にはほとんど通っていませんでした。勉強もせず、卒業式当日に校長室で再試験を受けていたというひどい高校生活でした。高校卒業後は美容師になろうと思っていたのですが、薬剤師の両親から大反対されて、一応予備校に籍を置き、受講料は一括で払ってもらったのですが、ここでもまた通ったのは1週間のみ。そして、夜のバイト生活で大学に受かるわけでもありませんでした。そのころ、痰がひどくて排泄できずにいる祖母の痰を取りに医学療法士が来ていたので、医学療法士の専門学校を受験するもこれも失敗。

途方に暮れている私へ母が第一薬科大学を進めました。ネットでの評判は良くなき気が進みませんでした。今となっては救われたのです。第一薬科大学は誰にでも勉強の機会を与えてくれ、やる気のある学生を成功へと導いてくれる大学です。

しかし、入学直後の私は化学の元素記号さえ初めて見たというレベルでした。エタノールとメタノールの区別さえつかずに知ったかぶりをして恥をかいたりしていました。もともと、薬学の勉強意欲もなく授業も分からないので反抗的な気分で、1年次は出席日数が足りずに留年してしまいました。それを告げた母には怒られるとばかり思っていたのに、母は叱らず「初めての一人暮らしで大変だろうが、まだ少しでも通学して、勉強をやってみる気があるのなら、もう少し頑張ってみたら？」と言われ、その時は感謝し反省もしたわけですが、それでもやはり急には変わりませんでした。

転機が訪れたのは増田先生の2年の有機化学の講義でした。今まで経験したことのない、汗をかきながらの情熱のある講義で、一番前の席に座っている私にバンバン唾が飛んできましたが、授業が楽しくなってきたのです。再試をすべて合格したら何かが変わるかもしれないという意識が生まれました。本日、

来られている松原先生に「簡単な試験でした。」という「こんな再試は受ける時点でダメだ。」と言われましたが、これも励ましと受け止めました。

2年の再試すべてを合格して3年からはきちんと頑張ろうと奮起し、学友に教える立場になり、それに生きがいを感じるようになりました。勉強する気のない彼らは達成感もなく、勉強をやらされているという思いがぬぐえずにいましたので、「ここまでやったら酒を飲もう！」等、ゲーム感覚で友達改革をしていきました。

4年に進級という時のことです。科学の偉い先生であった祖父が「敦史、勉強、頑張っとな。」と言いきり亡くなりました。掲示板に試験の順位が名前入りで張り出された時には写メで両親に送ると小遣いが増え、それも張り合いになりました。友達とも張り合っただけで切磋琢磨することがやりがいにつながりました。そんな勉強が楽しくなっていた4年の終わりに子供ができ、大学を辞めて働くべきか悩みましたが、周りの人たちの助けにより続けることができたのです。

6年の夏季合宿は半強制だったので、とりあえず参加して学力を上げようという程度の気持ちでしたが、楽しかった！23時まで真剣に質問に答えてくれる先生たちにモチベーションも上がりました。参加しない学生が多いのですが、ぜひ参加すべきです。「直前合宿もして欲しい。」と申し出たほどです。

現在勤務している総合メディカル薬局対馬店には福大出身と京都薬科大出身の2人の同期がいますが、薬局長の質問に対して、2人は即答できず、第一薬科大学出身の私だけが答えることができたのです。

元素記号さえわからなかった私でさえ、薬剤師になれたのです。どんな学生に対しても勉学の環境を整えてくれ、本人のやる気さえあればその能力をどんどん伸ばしてくれる第一薬科大学にはとても感謝しています。

